

高等教育機関における オープンエデュケーションの 国際動向

堀真寿美

NPO 法人 CCC-TIES / 帝塚山大学

世界に広がる MOOC

2013 年に入って、東京大学、京都大学が相次いで MOOC に参加することを表明し、日本国内においてもようやく、MOOC (Massive Open Online Course) という言葉が聞かれるようになってきた。

図-1 は、MOOC の代表的なプラットフォームの 1 つ、Coursera が提供するオンラインコースの受講生マップである。Coursera は、スタンフォード大学の教員が設立した営利団体で、83 の高等教育機関やミュージアム等とパートナーを組み、415 コースを 420 万人の受講者に提供している (2013 年 7 月現在)。

MOOC は、オープンエデュケーションの 1 つの活動である。本稿では、世界のオープンエデュケーションの動向を紹介するとともに、その可能性について言及したい。

オープンエデュケーションの動向

オープンエデュケーションは、あらゆる人々に学習機会を提供することを目的とした活動であり、教育の情報化とともに進化した。

□ Fathom の取り組み

一般へのインターネット利用が広がった 1990 年代半ばから、教育現場でもインターネットが利用されるようになってきた。

2000 年に、コロンビア大学が、London School of Economics, British Library, New York Public Library 等とともに、Fathom を立ち上げた。Fathom は、大学やミュージアムでの体験を遠隔地に住んでいる人々にインターネットで届けることを目的とし、講義資料や博物館の所蔵物をアニメーション、スライドショー、ストーリーミングビデオで提供した。このプロジェクトはコンテンツ制作にかかわる莫大な費用を維持することができず、わずか 3 年で終了したが、未来の教育を予感させる事業であった。

□ 教育コンテンツのオープン化

オープンエデュケーションの本格的な活動は、教育コンテンツのオープン化から始まった。

2002 年、MIT (マサチューセッツ工科大学) は、大学で正規に開講された講義のビデオ映像と関連情報をインターネットで公開する OCW (Open Course Ware) を開始した¹⁾。OCW の活動は MIT の呼びかけにより、アメリカ国内外の多くの高等教育機関に拡大した。また、同年、教育リソースを共有財産とする活動、OER (Open Educational Resources) がユネスコで採択され、OER に関する多くのプロジェクトが開始された²⁾。

□ Khan Academy の登場

Salman Khan は 2006 年に、マイクロレクチャーと呼ばれる短編のレクチャービデオの公開を開始し



図-1 Coursera-student-map^{☆1}

た。やがてこの活動はビルゲイツ財団が財政支援をしたことにより Khan Academy として一躍有名になった。Khan Academy も OER の 1 つであり、民間の個人が設立した非営利団体による活動である。

現在は、主に K-12^{☆2} の教育現場の Flipped Classroom (反転授業) の教材として利用されることが多く、多くの国でボランティアによる翻訳サイトが立ち上がっている。

□ MOOC の出現

初期の MOOC は、2008 年に Ivan Illich の「脱学校化社会」の理念に基づいた活動 Connectivism and Connective Knowledge course (CCK08) から始められた。初期の MOOC は、Wiki や Facebook, Second Life などの既存の SNS を利用して、2011 年には 150 万人の利用者を獲得するまでになった³⁾。

ニューヨークタイムズ紙が The Year of MOOCs と名付けた 2012 年に、Khan Academy の影響も受けながら、スタンフォード大学、MIT、ハーバード大学等の名門大学が MOOC に参入したことにより、一気に MOOC がブームとなった。彼らはオンラインコースの受講を無償とし、修了証の取得を望む場合のみ、有償で提供するモデルを提案した。そして、

わずか 1 年の間に、アメリカ国内だけではなく、世界中の有力大学と提携し、独自のプラットフォームから、それら大学のオンラインコースを提供するに至った。

教育コンテンツのオープン化から始まったオープンエデュケーションは、MOOC により教育そのものをオープンにする活動に発展した。図-2 は、オープンコンテンツ分類図にオープンエデュケーションの進化をマッピングしたものである。

わずか 1 年の間に MOOC はオープンエデュケーションのあり方そのものを大きく変えてしまった。

MOOC が変える教育の世界

MOOC の修了証を、大学の単位として認定する取り組みは、アメリカそしてヨーロッパを中心に広がりつつある。それとともに、MOOC が教育の世界を変える可能性について、さまざまな議論が展開されている。

大学の卒業証書ではなく、オープンエデュケーションの修了証のみで、人材の能力を判断できる時代が来るだろう、という Bill Gates の発言⁴⁾は、まさに、大学の存在意義を問うものである。

また、カリフォルニア州のように州政府の財政難により、教育予算の削減が続いているアメリカの州立大学では、MOOC により単位を認可することで、大学経営の効率化を進めようとしている。

☆1 James Moore's extemporaneous Website より
<http://www.dunsurfin.com/my-mooc-life-so-far-part-2/coursera-student-map/>

☆2 幼稚園 (Kindergarten の K) から始まり高等学校を卒業するまでの 13 年間の教育期間を指す。

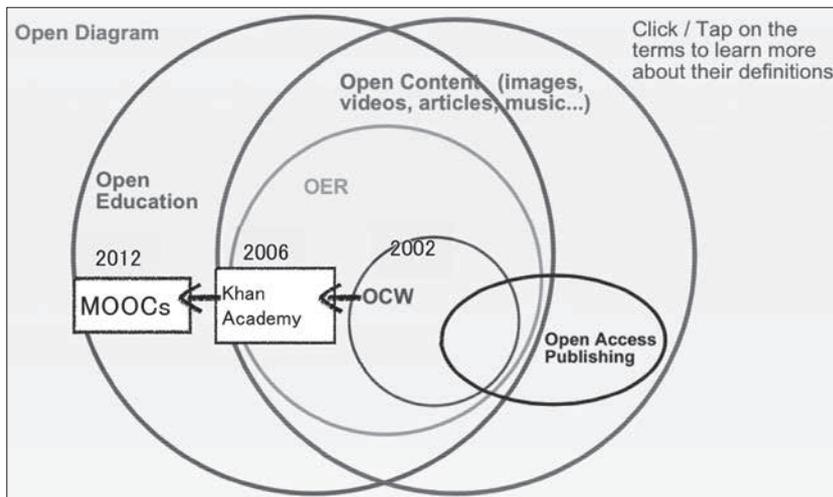


図-2 Open Diagram^{☆3}

ただ、これに対する反動も最近は見られるようになってきた。サンノゼ州立大学では、大学教育のサービス低下につながるという教員の強硬な反対もあり、MOOCでの単位認可を一時断念せざるを得なかった⁵⁾。また、MOOCでの単位認可をいち早く開始したコロラド州立大学では、単位認可を希望する学生が1人もいなかったという報告もある⁶⁾。

高等教育機関における、こうしたMOOCに対する反動が、一時的なものなのか継続的なものなのかについては今後とも注視していく必要がある。

一方で、もはやMOOCは、そうした高等教育機関の思惑をも超えつつある。

前述のCourseraは、蓄積したノウハウを活かした有償の教員養成講座、コースで利用した教科書のアフィリエイト収入、多言語翻訳と現地語でのオンラインコース提供など、エデュケーションの収益化とグローバル化を急ピッチで推進している。この限りで、MOOCはもはや高等教育機関という枠組みには収まってはいない。

エコシステムとしてのオープンエデュケーション

初期のMOOCの立ち上げにもかかわったPhil Hillは、現在のMOOCには、教員の拒絶、修了証の価値、データと成果、学習完遂率、文化的背景と習慣、の5つの障壁があると指摘している。

しかし、この障壁を乗り越えた暁には新たなエ

デュケーションの世界が広がっている、と考えられる。

かつてマイクロソフトは、Windowsの普及によりハードウェアベンダ、ソフトウェアベンダ、サポートサービス、教育機関が共存共栄し市場を発展させていくエコシステムと呼ばれる体制を作り上げた。

MOOCは、同様の仕組みを作り上げる潜在的なパワーを持っている可能性がある。

図-3は、主要国のこの10年間のGDPの成長率に対する教育市場の成長率の比である。日本を例外として、大半の国において教育市場はGDPを上回る成長率を遂げていることが分かる。

MOOCはこの世界の教育市場の成長を背景とし、社会貢献活動の1つであり、教育視点でしか捉えられてこなかったオープンエデュケーションに、政府、有力大学、財政難に苦しむ大学、初等中等教育機関、出版社、さまざまなベンダ、そして受講生、など、あらゆる人々と組織を巻き込もうとしている。MOOCがこうした問題を包括的に解決するエコシステムとして成立した場合、教育のあり方、価値観はまったく別のものになる。

日本国内では、MOOCの脅威と可能性に関して、いまだ本格的な議論と検討が行われていない。その

^{☆3} Free #OER Mobile Course-Free Learning in Summer より
<http://classroom-aid.com/2013/05/31/free-oer-mobile-course-free-learning-in-summer/>

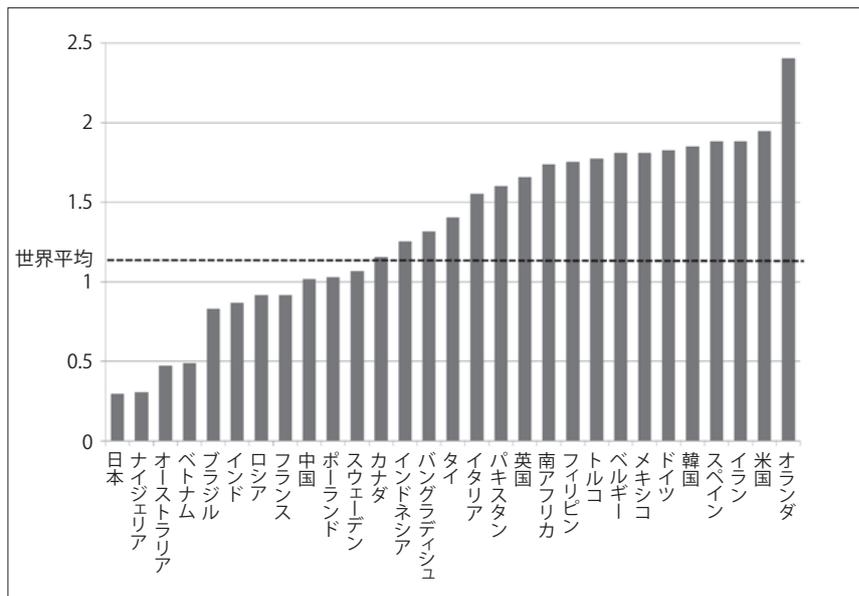


図-3 主要国の教育市場成長率/GDP成長率(2000年比) ^{☆4}

間に海の向こうでMOOCエコシステムが成立したとき、もはや日本の高等教育機関も無関係ではいられない。エコシステムとしてのMOOCをどのように受け止めるのか、その答えを日本の教育機関が迫られる日は間近に迫っている。

参考文献

- 1) Abelson, H. : The Creation of Open Course Ware at MIT, Journal of Science Education and Tecnology, Vol.17, No.2, pp.164-174 (2008).
- 2) Dichev, C. and Dicheva, D. : Is It Time to Change the OER Repositories Role?, JCDL'12 Proceedings of the 12th ACM/IEEE-CS Joint Conference on Digital Libraries, ACM, New York, pp.31-34 (2012).
- 3) Fini, A. : The Technological Dimension of a Massive Open Online Course : The Case of the CCK08 Course Tools, International Review of Research in Open and Distance Learning, Vol.10, No.10 (2009).
- 4) Grossman, S. : Wired Campus-Bill Gates Discusses MOOCs at Microsoft Research's Faculty Summit : The Chronicle of Higher Education, <http://chronicle.com/blogs/wiredcampus/bill-gates-discusses-moocs-at-microsoft-researchs-faculty-summit> (July 2013).

- 5) Kolowich, S. : Technology-As MOOC Debate Simmers at San Jose State, American U. Calls a Halt : The Chronicle of Higher Education, <http://chronicle.com/article/As-MOOC-Debate-Simmers-at-San/139147/> (May 2013).
- 6) Kolowich, S. : Technology-A University's Offer of Credit for a MOOC Gets No Takers : The Chronicle of Higher Education, <http://chronicle.com/article/A-Universitys-Offer-of-Credit/140131/> (July 2013).

(2013年7月17日受付)

.....
^{☆4} 成長が期待される世界の教育市場：三井物産研究所戦略開発室酒井三千代より作成
http://mitsui.mgssi.com/issues/report/r1207i_sakai.pdf

堀真寿美 (正会員) hori@tezukayama-u.ac.jp
 奈良女子大学人間文化研究科情報科学専攻博士前期課程修了。現在、帝塚山大学 TIES 教材開発室および、NPO 法人 CCC-TIES 所属。